

山形県探究型学習課題研究発表会

令和元年12月21日、山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）を会場に、山形県探究型学習課題研究発表会が開催されました。本校からは部活動コア・スーパーサイエンスクラブ（CSS）および11月の課題研究の中間発表で選ばれたグループが、科学専門部の部、一般の部、チャレンジ発表の部（審査対象外）に参加しました。審査の結果、科学専門部の部でCSS部員による「農作物における品質管理を目指したバイオセンサーの開発」が最優秀賞を受賞し、今年8月に高知県で行われる全国高等学校総合文化祭自然科学部門ポスター発表の部に出席することが決定しました。その他、一般の部でも本校5グループが入賞しました。



高校生の“ワクワク”を向上させる授業形態 二年 国際探究科 女子

私たちは山形県探究型学習課題研究発表会で、「高校生の“ワクワク”を向上させる授業形態」についての調査・研究の発表を行ってきました。研究では、重点であるワクワクの定義を「何かに興味を示し、それに対する期待や喜びに弾んでいる状態」としています。それに基づきどうすれば高校生の“ワクワク”を引き出し、それを活かして意欲的で能動的な授業を作れるか仮説を立て、本校の生徒を対象とした実験から得られた結果を元に考察を重ねました。現段階では、まだ研究しきれていないことや、アンケートを活かしきれなかったという反省があり、研究は完全とはいえないので、今回の発表会を1つのステップとして、これからも高校生のワクワクを向上させられる授業形態を模索していきたいと思っています。今後も班員と協力して、自分たちの研究を誇りに思えるように頑張っていきます！

成果発表会を振り返って 二年 理数探究科 女子

先日、私たちは山形県探究型学習課題研究発表会に参加しました。私たちのグループは納豆菌を用いた研究を行い、その成果を発表してきました。これまでSSR（課題研究）の時間や放課後を使って研究をする中で、データの収集がうまくいかず苦労することもありましたが、実験方法を再度見直すことで納得のいくデータが得られました。発表当日は緊張しましたが、SSR中間発表での課題を改善し、自分たちが伝えたいこれまでの内容をうまく伝えることができました。また、他校の研究発表からポスターのまとめ方、実験の組み立て方、参考文献のより効果的な引用の仕方など新たな学びも得られる貴重な体験となりました。今回の発表を終えて多くの学びが得られた反面、自分たちの研究における課題も多く見つかったので、今後の研究に活かし、3月の校内生徒研究発表会ではさらに良い成果を得たいです。



山形県探究型学習課題研究発表会に参加して 二年 理数探究科 女子

私は12月に山形市のビッグウイングで行われた山形県探究型学習課題研究発表会科学専門部に参加し、「農作物における品質管理を目指したバイオセンサーの開発」というテーマでポスター発表しました。この発表会は今年8月に高知県で開催される全国高等学校総合文化祭自然科学部門に県代表として出場する研究の選考を兼ねています。そのため、私にとって大きな意味を持つ発表会となりました。特に、科学専門部には県内のレベルの高い科学部の研究が集結するため、とても良い刺激を得ることができました。審査の結果、最優秀賞をいただき、全国大会へ出場することが決まりました。審査員の方々や大学の先生方からの様々な質問やアドバイスを今後の研究に生かしていきたいです。そして全国大会では、悔いの残らないように日々の研究活動がんばりたいです。

研究活動を通して 二年 理数探究科 女子

私は先日、山形県探究型学習課題研究発表会に参加し、部活動で行ってきた研究を科学専門部の部で発表しました。蛍光色素についての研究を山形大学大学院有機材料システム研究科・片桐洋史研究室でのご指導の下、行ってきました。始めたころはわからないことだらけでしたが、研究室の方々の丁寧なご指導により、楽しんで研究することができました。発表会本番の日、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、いざ発表の時間になると会場は活気にあふれ、いつしか緊張も消えていました。審査員の方々をはじめ、たくさんの方が真剣に発表をきいて下さり、私も自分らしく発表することができました。また、ご意見やアドバイスをいただいたり、意見交換も行い、とても貴重な経験となりました。発表を含め、研究を通してたくさんのことを学びました。研究活動で身につけた力は自分自身の強みになります。この学びを今後に生かしていきたいです。

